

— 告 告 —



阿部 薫平 (あべくんぺい)
金沢工業大学大学院工学研究科
機械工学専攻
博士前期課程二年
富山県石巻高等学校出身

技術コンサルタントで勝負。 挑戦と自身の強みを武器に。

大きな仕事を任せてもらえるから」
だった。

同社のインターンシップで感じたフランクな社風も気に入った。そして、一番の理由は、自身の強みであるコミュニケーション力を武器にした「コンサルタント営業ができる」であった。

大学院では超音速旅客機の開発に役立つ流体解析に取り組み、直

交格子法を用いたシミュレーションの計算精度を他の手法とも比較しながら検証し、国内外の学会で積極的に発表してきた阿部さん。この流れでいけば、専門をいかせる開発部署を希望しそうなものだが、「人と話すのが好きで、仮に言葉が通じなくても、僕なら分かりやすく伝えることができる」と、営業部署への配属を猛アピールした。

そんな自信の源泉となっているのが、KITがグローバル人材の育成プログラムとして実施する「ラーニングエクスペリエンス」だ。アジアの学生たちと多国籍チームを組んで約二週間、農村に滞在し、現

地が抱える問題を解決に導く方策を多角的に検討、提案するもので、阿部さんは二〇一九年、二三年の二度、インドネシアを訪れた。

「一九九年は皆の前で発表するのをためらい、それが後悔となったので、リベンジの思いで再挑戦しました。現地では学生間の意思疎

通は英語ですが、農村は現地語しか通じません。表情や声のトーン、ジェスチャーといった言語に頼らないコミュニケーション力が自然と鍛えられ、今回は討論や発表でも中心的な役割を果たすことができました」

達成感がにじむ視線の先には、はや将来の夢がしっかりと描かれていた。「航空機に関連する企業とのビジネスを拡大したいですね」。自身の研究にかかわる分野で新たな顧客を開拓できれば、さらにモチベーションが上がる。

彼の話聞き、「得手に帆を上げる」の諺が浮かんだ。磨いた得意技を発揮する機会の到来。それがIDAJでのコンサルタント営業であり、原点にあるのは、進学時に母が言った「社会から必要とされる人間になれ」の教えである。

金沢工業大学

石川県野々市市扇が丘七七一
電話番号 〇七六-二四八一-〇〇〇

KIT
キャンパス
レポート
文・杉村裕之